

福祉生活病院常任委員会資料

(令和 8 年 7 月 2 1 日)

【 件 名 】

- 大分県日出（ひじ）町、北海道千歳市とのあいサポート運動の連携推進に関する協定締結について
(障がい福祉課) . . . 2
- 3 府県ドクターヘリの 7 月の運航休止について
(医療政策課) . . . 3
- 新たな地域医療構想策定に係るプロポーザル審査会の結果について
(医療政策課) . . . 4
- 第 62 回献血運動推進全国大会の開催結果について
(医療・保険課) . . . 5

福 祉 保 健 部

大分県日出（ひじ）町、北海道千歳市とのあいサポート運動の連携推進に関する協定締結について

令和8年7月21日
障がい福祉課

あいサポート運動の更なる飛躍・発展のため、県内のみならず全国にも当該運動を波及させる取組を強化しています。

この度、あいサポート運動を本県と連携して推進するため、九州地方で初となる大分県日出町、北海道内3自治体目となる北海道千歳市と協定を締結しましたので報告します。

1 あいサポート運動連携協定締結式概要

(1) 大分県日出町

- ・日程等 令和8年7月1日（水） 日出町役場
- ・出席者 平井 伸治 鳥取県知事
安部 徹也（あべ てつや）日出町長 ほか
- ・協定に至った経緯

日出町議会議員が障がい福祉施策の視察として鳥取県に来県（R7.11.12）した際、あいサポート運動に感銘を受け、令和7年度12月町議会にてあいサポート運動の導入を一般質問で提案。町長から「日出町の福祉を考える上で、大変参考となる先進的な取り組み。共生社会を実現するうえで非常に有効な施策」と答弁し、執行部としてもあいサポート運動導入の研究・検討を行った結果、令和8年6月補正で予算を確保し、あいサポート運動の導入を行うこととしたもの。

(2) 北海道千歳市

- ・日程等 令和8年7月7日（火） 千歳市役所
- ・出席者 中原 美由紀 鳥取県副知事
横田 隆一（よこた りゅういち）千歳市長 ほか
- ・協定に至った経緯

令和7年3月に「千歳市コミュニケーション条例」を制定し、障がいのある人や高齢者が必要とする多様なコミュニケーション手段に対する理解促進に関する施策を推進しているが、道内であいサポート運動を実施している苫小牧市（道内2件目）の取組を知り、障がいのある人に対する差別解消や理解促進に向けた取組を強化するためにあいサポート運動が効果的であると考え、千歳市でも導入することとなったもの。

2 あいサポート運動の現況

- (1) あいサポーター数：745、849人（R8.5末現在）
- (2) あいサポート企業・団体認定数：3,384企業（団体）（〃）
- (3) あいサポート運動の連携自治体：8県20市7町＋韓国江原特別自治道（R8.7.21現在）

【都道府県】長野県、奈良県、和歌山県、島根県、岡山県、広島県、山口県、愛媛県

【市】（北海道）登別市・苫小牧市・千歳市、（青森県）三沢市・十和田市、（茨城県）取手市、（埼玉県）富士見市・秩父市・狭山市・和光市・川口市・吉川市・加須市、（神奈川県）大和市、（愛知県）名古屋市、（京都府）長岡京市・福知山市、（大阪府）大阪市・和泉市、（兵庫県）西宮市

【町村】（埼玉県）横瀬町・皆野町・長瀬町・小鹿野町・松伏町・三芳町（大分県）日出町

【国外】韓国江原特別自治道

<大分県日出町>



<北海道千歳市>



3 府県ドクターヘリの7月の運航休止について

令和8年7月21日
医療政策課

3府県ドクターヘリの7月の運航等について、運休日程が確定するとともに、安定運航に向けた対応状況等について報告します。

1 運航休止期間

3府県ドクターヘリについて、運航事業者から当初「整備士不足により、7月から9月まで、全日運航停止が避けられない」と説明があったが、その後運航事業者内での調整により7月は全日運航停止を避けることとなったもの。

ヘリ名称	休 止 期 間	休止期間合計
3府県 ドクターヘリ	7月15日(水) ～ 24日(金)	14日間
	7月27日(月) ～ 30日(木)	

※兵庫県ドクターヘリ（県立加古川医療センター配置）も15日間の運航休止

※8月以降の運航予定については未定

※運航事業者内で他部署の整備士等のドクヘリ部門との兼務等を調整し、全日運航停止を避けることとなったもの。

2 運航停止に伴う本県の対応状況

鳥取県ドクヘリ運航範囲の鳥取県東部エリア、兵庫県北部エリア（新温泉町、香美町）について、鳥取県ドクターヘリにより対応する。また、本県消防防災ヘリ等による運航体制、医師搭乗型消防防災ヘリの活用による兵庫県への応援体制の構築に向け、関係機関との協議を進めている。

3 兵庫県の対応

(1) 兵庫県内ドクターヘリの運航に向けた2パイロット制度の導入検討

7月9日に兵庫県と基地病院が協議を行い、令和9年3月末までの臨時的な措置として、ドクターヘリへ整備士に代わり操縦士を同乗する「2パイロット制」の導入に向けた調整を行うことを決定した。

→今後、各基地病院、ドクヘリ運航事業者、国等と調整を進め、8月以降2パイロット制への移行を進める。移行後、運航休止の解消が期待される。

(2) ドクターヘリの安定運航に向けた国要望

兵庫県は、県内ドクターヘリの運航停止の状況を踏まえ、国に対しドクターヘリの運航体制の再構築や、整備士、操縦士の確保養成等にかかる厚生労働省への要望を6月20日に実施した。

(3) ドクターヘリの安定運航に向けた対策会議等の実施

兵庫県は、ドクヘリの安定運航に向け、基地病院、関係消防局、関係自治体等を集めた連絡会議を6月1日に開催。（平井知事WEB出席）

また、運航停止時における具体的なバックアップ体制等の必要な対策を検討するため、他県ドクターヘリや他県消防防災ヘリ等による運航体制の検討を行う検討会を6月17日に開催した。

(4) 本県の対応

本県も兵庫県開催の対策会議等に参加するとともに、3府県ドクヘリの運航休止が回避できるよう、本県とつながりのある運航会社を紹介するなど、通年運航に向かえる体制ができるよう、最大限サポートしている。

新たな地域医療構想策定に係るプロポーザル審査会の結果について

令和8年7月21日
医 療 政 策 課

医療と介護の複合ニーズを抱える 85 歳以上の高齢者の増加と医療従事者の減少が見込まれる 2040 年頃を見据え、将来にわたって必要な医療提供体制の確保に向け、今年度から「新たな地域医療構想」の策定作業を進めています。

この度、プロポーザル審査会を開催し、新たな地域医療構想策定の議論に必要となるデータ等を作成する事業者を選定しましたので概要を報告します。

1 プロポーザル審査会の開催結果

新たな地域医療構想の策定に向け、県、医療関係機関等で地域医療の課題整理や今後の方向性の協議を行うため、議論に必要となるデータ等を作成する事業者を選定した。

[審査結果]

- 審査会開催日：6月26日（金）
- 参加事業者：3社（全て県外事業者）
- 選考方法等：提出された企画提案書等により、医療関係者、学識経験者等6名で審査を行い、合計得点の高い事業者を最優秀提案者として選考（7月下旬に契約締結予定）
- 最優秀提案者：株式会社日本経営（大阪府）
- 委託内容
新たな地域医療構想策定の議論に用いるデータ等として次の項目の分析や調査等を実施
※非公表データ（レセプトデータ等）の分析や医療機関への独自調査等を予定
 - ・市町村及び医療圏ごとの入院・外来・在宅医療、介護の過不足状況
 - ・各病院の診療実績や診療体制から医療機関の機能
 - ・医療従事者の供給・需要の現状、実態把握、将来推計（診療科別医師数、看護養成施設の卒業者数の分析等）
 - ・病院、有床診療所を対象として経営の持続可能性、病床活用等の調査実施 など

2 今後の対応

事業者と委託契約を締結するとともに、委託事業によるデータ等の提供や県内医療機関等へのヒアリング結果等を基に、県、医療関係機関等との間で検討会を開催し、新たな地域医療構想の策定作業を進めていく。

[参考] 本県の新たな地域医療構想作成に向けた主なスケジュール（予定）

- | | |
|----------|---|
| R 8. 4 ～ | 医師会、医療機関、介護施設、自治体等関係機関等へのヒアリング
救急、在宅医療等の部門ごとに検討 |
| R 8. 7 | 国が新たな地域医療構想ガイドラインを策定 |
| R 9. 4 | 構想素案の作成 |
| R 9. 12 | 構想案の作成、構想案のパブリックコメント、県議会等への報告、
自治体・医師会・医療機関等への意見照会 |
| R 10. 3 | 構想の策定 |

第 62 回献血運動推進全国大会の開催結果について

令和 8 年 7 月 21 日
医 療 ・ 保 険 課

令和 8 年 7 月 10 日（金）に米子市で開催した「第 62 回献血運動推進全国大会」の概要について、次のとおり報告します。

1 第 62 回献血運動推進全国大会の開催概要

- (1) 開催目的 国内の医療に関する全ての血液製剤を献血により確保することを目指し、国民一人一人が献血の重要性を認識し、献血運動が全国で盛り上がることにより、特に若年層の献血機運を高め、我が国の血液事業のより一層の推進を図る。
- (2) 日 時 令和 8 年 7 月 10 日（金）午後 1 時から 3 時 50 分まで
※企画展示は午前 10 時から、ウェルカムアトラクションは午後 0 時 30 分から
- (3) 主 催 厚生労働省、日本赤十字社、鳥取県
- (4) 後 援 鳥取県教育委員会、鳥取県市長会、鳥取県町村会、米子市
- (5) 場 所 米子コンベンションセンター 多目的ホール
- (6) 内 容 【ウェルカムアトラクション】認定こども園あけぼの幼稚園「和太鼓等の演奏」
【第一部（式典）】開会のことば、国歌斉唱、主催者あいさつ、おことば、歓迎のことば、功労者の表彰、血液事業用備品寄贈目録贈呈、体験発表、献血のうた（手話付き）、鳥取発のパフォーマンス（手話）、誓いのことば
【第二部（アトラクション）】アトラクション（けんべい神楽、赤十字奉仕団の活動報告、若年層向け献血推進啓発動画上映）、次回開催県あいさつ、閉会のことば
- (7) 出席者 1,093 名（県内 919 名、県外 174 名）
日赤関係者、医療関係者、学生・生徒、市町村、献血協力企業、県・市町村議会議員、県外（行政、血液センター職員）、一般参加者など

2 主な大会内容

(1) 秋篠宮皇嗣妃殿下のおことば

- ・「鳥取県では平成 21 年に「あいサポート運動」が始まり、誰もが暮らしやすい地域社会を皆で一緒に作る取り組みが続けられています。献血推進運動もこのように若い世代に受け継がれていることを心強く思います。」
 - ・「本大会を契機として、献血への理解と協力が各地においてより一層進み、献血運動の輪がさらに広がっていくことを願い、大会に寄せる言葉といたします。」
- などの、おことばを賜った。



秋篠宮皇嗣妃殿下

(2) 体験発表

①献血推進の立場（鳥取大学医学部 ^{たかはしまい} 高橋真衣さん）

- ・長年献血を続けている母から、献血は必ず誰かの役に立つボランティアであると言われていたことをきっかけに 16 歳の誕生日に初めて献血に行ったことや、海外での献血体験などを紹介。
- ・大学の献血サークル活動で、協力いただくことの難しさなどの現実直面するも、「献血があったからこそ、今ここにいられる」という輸血を受けた方の言葉が強く心に残り、また、献血が医療や研究に活用されていることを知り、献血は確実に誰かの命や未来につながっていることを実感。
- ・行動と発信が必要であり、若い世代は自ら SNS で発信するという手段を持っており、「若者に献血をしてほしい」と願うだけでなく、「若者とともに、献血を広げていく」ことが大切だと感じている。



体験発表①（献血推進の立場）

②輸血経験者の立場（鳥取看護大学 ^{もりた} 森田さくらさん）

- ・小学生の頃に骨髄異形成症候群と診断された。中学時代に長期入院し輸血や妹からの造血幹細胞移植を受けた闘病体験を通して、家族や先生、クラスメイトへの感謝の思いを強くする。
- ・これまで多くの輸血を受けたが、献血してくれた方、血液を必要な方へと届けるサイクル、献血推進に取り組まれる方々などに感謝を伝えたい。
- ・現在、看護大学で勉学に励みながら、学生赤十字奉仕団に所属し、献血の必要性を伝え、呼びかけに取り組んでいる。
- ・この先も日々勉学と奉仕団の活動に懸命に取り組み、多くの人を救える立派な看護師を目指し精進していく。



体験発表②（輸血経験者の立場）

（３）手話を取り入れた「献血のうた」の合唱

（県西部地区の高等学校（JRC 部及び合唱部））

手話の普及をはじめ、障がい者施策を先進的に進める本県開催に相応しい内容となるよう、献血運動推進全国大会で歌い継がれている「献血のうた」に、高校生が手話を取り入れて、合唱を行った。



献血のうた（手話付き）

（４）誓いのことば（鳥取大学農学部 ^{はすいりょうしゅん} 蓮容 亮 俊 さん）

- ・人の役に立つ活動をしたと思っていたところ、大学内に献血バスが来ている様子を見て人の役に立てると活動を開始。
- ・鳥取県学生献血推進協議会の代表として、県内外の方々と交流しながらイベント運営、広報、研修等を実施した自らの活動内容を紹介。
- ・献血という尊いボランティア活動をより身近に感じてもらうため、世代や地域を超えた発信・活動を続けていくことが重要であり、大会にお集りいただいた皆様方とともに、今後もこの献血推進活動を積極的に進めていくことを誓った。



誓いのことば

（５）その他

会場では、企画展示として大会関係の他、献血推進関係、本県の医療・福祉、観光等をパネル展示や体験、ワークショップ等の形で紹介するとともに、「あいサポート・アートとっとり特別展（主催：鳥取県）」を同時開催した。

３ 今後の取組

鳥取大会では、学生の大会実行委員会への参画や出演者として多くの若年層に参画いただいた。引き続き、献血推進サークルなどと連携して啓発事業の取組を進めるとともに、教育委員会等とも連携し、若年層の献血機運を高め、血液事業のより一層の推進を図る。